

ひめじょ通信

発行：第13号（年1回発行）

発行日：2018. 5. 19

広報委員：今村朋子(編集長)・中越利佳
中尾慶子・秋本美加

発行部数：300部

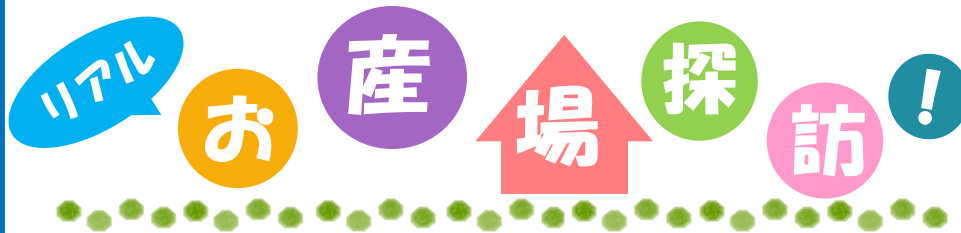
発行元：一般社団法人 愛媛助産師会

(一社)愛媛助産師会 会長 井伊貴子

事務局：愛媛県松山市中一万2-1

愛媛県助産師会立まつやま助産院内

E mail: ehime@himejyo.jp



新しくなった！ 松山赤十字病院 成育医療センター周産期部門

目次

* お産場探訪	1~2
* 研修報告	3~5
* イベント報告	6~7
* ひめじょのお知らせ	8

●はじめての「リアル」お産場探訪企画

H30年1月に松山赤十字病院新病棟(北棟)がオープン！その北棟5階に成育医療センターの周産期部門が移転しました。

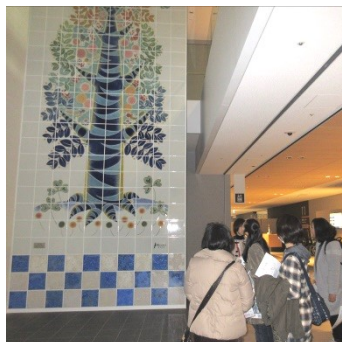
そこで3月11日に、お産学習グループの企画として、「新しくなった松山赤十字見学ツアー」が行われ、ひめつう恒例の「お産場探訪」が参加型のリアル探訪として、皆様もご参加いただくことになりました。参加者は、定員を上回る23名！想定以上の反響に一度に回ることは難しく、2グループに分かれて時間差で見学することになりました。

ツアーガイドは、もちろん愛媛助産師会会長であり、松山赤十字病院北5病棟師長でもある井伊貴子さん。井伊さんに色々なお話を伺いながら新病棟の外来、病棟を案内していただきました。

新病棟に入ってまず目に移るのはホテルのような外来ロビー。そして、1階・2階を昇降するエスカレーター前の壁面にある、大きな砥部焼の陶板アート。2階には産婦人科外来と同じ並びで助産師外来の診察室があり、廊下の担当者板には「助産師」と表示されていました。医師と同等に外来運営をしている証であり、誇らしく思えました。



●病院の北側からみた新病棟
(病院HPより)



●大きな砥部焼の陶板アートに
みんなで感動！

●外来の待合コーナーの
椅子もおしゃれ！



●掲示に「助産師」と書かれた診察室



●松山赤十字病院（成育医療センター周産期部門）

* 新病院：平成30年1月、周産期部門等が北棟に新規オープン。

平成33年に病院全体のグランドオープンが予定されている。

* 地域周産期母子医療センターの機能を担う施設であるとともに、院内助産「まどんな」を開設し、助産師の専門性を活かしたケアを提供している。

* 成育医療センターとして、妊娠、胎児から出生、小児、思春期、成人への発達を継続的に支える医療を展開している。

* 年間分娩件数 559件（H29年）

* 産科スタッフ(GCU含む)：産科医9名、助産師28名、看護師4名

* 産科病床数：一般産科病床20床、LDR3室、GCU6床

(NICU6床は、上記産科スタッフとは別に看護師・助産師が配置されています)

●いよいよ病棟に潜入！

5階の成育医療センターはLDR3室(内1室は院内助産用)、産科病床20床、NICU・GCU各6床で構成されています。全ての正常新生児は母児同室となっています。また、同じフロアにNICU・GCUがあるため、ハイリスク新生児のスムーズな治療やその後の回復支援にもあたることができるようになっています。

5階の北側スペースには庭木が植えられており、5階でありながら、どの病室からも自然を身近に感じられる心地よい療養環境になっています。病室に置いてある椅子は、ドラマ「コウノドリ」でも使われていたものだそうです。

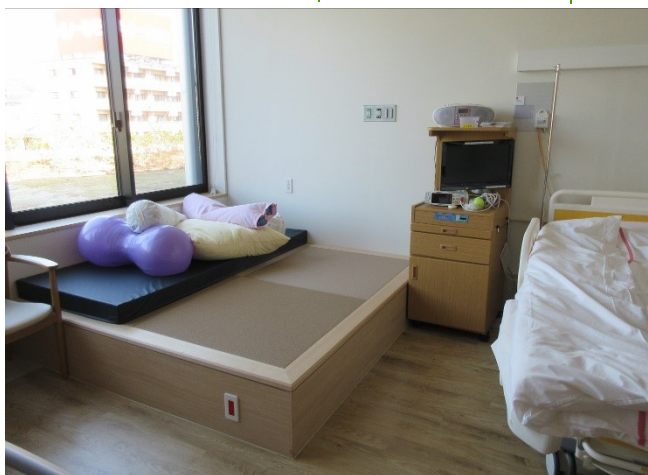
また、院内助産用のLDRには、小上がりの畳スペースがあり、畳の上でもフリースタイル分娩ができるようになっています。出産を待っている家族にとっても、過ごしやすいスペースのようです。



●ドラマ「コウノドリ」の椅子

スタッフの方からもお話を伺いました。「大部屋の患者さん同士の空間が広がったので、患者さんにとっては快適だと思う」「まだ物品の置き場所とか慣れてないところがある」「動線がうまくいかないところがある」「ナースステーションは患者さんと話しやすくなった」とのことです。大変な引越しを経て、よりスムーズな動線になるよう現在も色々な工夫をされているようです。

見学ツアーの参加者からは、新生児用コットや身長計、免震構造、分娩セットなどあらゆる視点での質問が飛び交い、自施設との比較はもちろんのこと、工夫されているところやいい点を取り入れようと積極的な見学となりました。



●見学の目玉は院内助産用のLDRの分娩台横の畳スペース。皆が一様に「畳いいですねえ…」とうらやましそうな表情でした。



●LDRのシャワー室の壁に取り付けられた折りたたみ椅子に、「便利ですね〜!」の声が多く出ました。



●オープンなスタッフステーション



●スタッフステーションを中心に東西に入院室とLDR/NICUフロアが配置された病棟の見取り図



●見学の皆さんの反響が大きかった赤十字手袋! 「日赤ブランドだ〜」の声。



●様々な質問に一つ一つ答えてくださった井伊師長



●ベットの安全カバーをした母児同床用の入院室



●面会廊下からのNICU見学

春季
研修助産師にやさしい
「機能的な骨盤誘導曲線をつくるための助産ケア」

2017.5.21 講師：下田真太郎 先生（長崎百合野病院 理学療法士）

今回講師としてお招きした下田先生は、地域の分娩施設や助産院などから依頼を受けてマタニティー外来での妊産婦への理学療法を行われているだけでなく、九州を中心に多職種や一般向けのセミナーを多数開催されています。

私たち助産師や産婦さんにとって大切なのは「正しい姿勢を作ること」です。正しい姿勢をとると、いかに力が発揮できるかを体験する実技では、とても会場が盛り上がりました。また、普段から股関節を使うことを習慣づけることで、骨盤底筋の柔軟性と強さを獲得できることから、「正しい姿勢」と「股関節」をキーワードに妊娠からの予防的なアプローチをしていきたい

と思いました。

研修後のアンケートにも、「普段の姿勢が分娩にも、産後の授乳にも、その後の人生にも深くかかわっていることが理解できた。」「分娩時の声かけで骨盤底筋が緊張したり緩んだりする話がおもしろかった。」「分娩進行に対して効果があるか使ってみたい」など、理学療法士の視点からのお話は目からウロコで、明日から実践したくなることばかりでした。

（助産院emi
：田中 恵美子）

タイアップ
研修

「子ども・子育て包括支援に活用できる保健指導」

2018.1.28 講師：淵元純子先生（日本助産師会保健指導部会長/ふちもと助産院院長）
講師：近藤陽一先生（日本赤十字社松山赤十字病院 成育医療センター小児科部長）

寒波で小雪が舞う中、愛媛県助産師会、日本助産師会、ジャパンワクチン株式会社のタイアップ研修会が開かれました。日本助産師会保健指導部の淵元純子先生による「子ども・子育て包括支援に活用できる保健指導：子ども虐待防止について考えよう!!」、松山赤十字病院生育医療センター小児科の近藤陽一先生による「助産師さんに知ってほしい予防接種の最新情報」、ジャパンワクチン株式会社さんからの予防接種の教材・ワクチン管理アプリの紹介がありました。

1. 子ども虐待防止について考えよう!!

講師：淵元純子 先生

淵元講師がこれまでにかかわった虐待事例についてお話をされながら、助産師としてどのように母親に寄り添っていくかをわかりやすくお話していただきました。特に印象に残ったことは、虐待という行為は問題だが虐待をする母親を裁いてはいけないこと。虐待支援は親（人）を支援することが大切だということ。

核家族、少子化の中、子育ての責任を一人で背負っているお母さま方の気持ちに寄り添い、いつでも頼れる存在となることが助産師には求められると改めて痛感しました。講師が最後に紹介された「家族の温かいサポートと専門家

のケアを受けて、妊婦（母親）のエネルギーが満ち溢れる。それが子どものケアをする源となる。(Clausen.jp)」ということを常に念頭に置き、様々な困難を持つお母さまに対して、それぞれの施設や職場で何ができるかを真剣に考えていきたいと思いました。

2. 助産師さんに知ってほしい予防接種の最新情報

講師：近藤陽一 先生

近藤講師は、免疫、ワクチン、予防接種の目的、定期接種と任意接種、ワクチン接種時期、同時接種、VPD、ワクチン接種の有害事象と副反応等わかりやすく解説をしていただきました。生後2か月から20種類のワクチンの予防接種を完了するためには、計画的に接種していくことが重要であり、できるだけ早期に予防接種についての情報を提供する必要性を再認識しました。

育児に忙しいお母さま方にとって、予防接種を計画的に進めていくことは難しいことですが、教材やワクチン管理アプリ等を活用し啓発に努め、また、かかりつけ医を早めに決定し、出産後の予防接種の計画を意識してもらえよう、助産師としても積極的にかかわっていけたらと思います。（広報委員／愛媛県立医療技術大学：中越利佳）

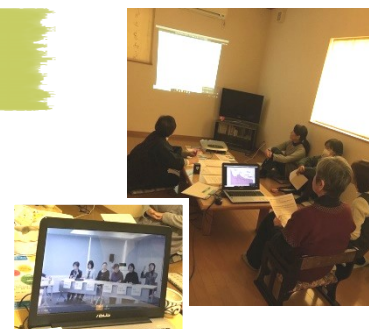
遠隔
配信

「助産所における連携医療機関確保推進のための研修会」

2018.1.20 まつやま助産院（遠隔配信セミナー受講会場）

公益社団法人日本助産師会主催の遠隔配信セミナーが、全国55か所の会場の一つとして、まつやま助産院で行われた。テーマの性格上、参加者は少ないと予想していたが、案の定まつやま助産院スタッフ6名と他2名の8名であった。

内容は、「妊産婦への説明と同意」などの昨年9月の医療法改正に伴う内容や、「助産所と医療機関の望ましい連携の在り方」等、助産所勤務者にとっては、とても大切なことが沢山あり、再確認や再考の良い機会になった。講演の内容について会場でお互いに意見交換もしながら和やかに参加でき、今回のような遠隔配信という形で研修会は効果的であったと思った。できれば、搬送を受けるサイドの参加がもう少しあれば、より良かったと思う。（まつやま助産院：武智恵子）



●助産院が東京の会場とリアルタイムでつながりました！

リペア
研修

講義&模擬授業 「助産師が行う性教育」

2017. 7. 16

講師：中越利佳先生（愛媛県立医療技術大学）

模擬授業：坂本都志江さん、原田恵美さん、植村礼子さん

「助産師が行う性教育」と題して助産師である中越先生を講師としてお招きして、愛媛県立歴史博物館で講演が行われました。

「いのち」の現場に関わることができる職業であるからこそ、「命＝性・生きる」教育ができる。まさに！と再認識しました。

途中、歴史博物館のご厚意で、昔の産婆道具を学芸員さんに見せて頂きました。クレンメや真田紐等、私も含めて、ちょっとばかり年配の助産師たちが懐かしそうにそれらを囲んでいました。また、毛筆で丁寧に書かれている産婆記録は歴史の重みを感じました。



その後、南予で活躍されている助産師による小中高の模擬授業もあり、自分たちが生徒になった気持ちで聞いていました。いじめで簡単に命を絶つ子のニュースが後を絶ちません。そのニュースを聞くと心に痛みます。昨年、性教育を行った後に、「母が、一生懸命自分を産んでくれた」と、涙ながらに感想を言ってくれた生徒がいました。私たちができることは命の大切さを子供たちに伝えていくことではないでしょうか？これからも、助産師として伝えられることを大切にしながら性教育を行っていききたいと思います。

（市立八幡浜総合病院：泉 佳代）



● 講師：中越先生

＊講演の際には、中越先生が中心になって大学が作成した性教育パッケージ教材の紹介もありました。（教材一般配布のダウンロード期間は終了しました）

● 小学校模擬授業
：坂本さん● 中学校模擬授業
：原田さん● 高校模擬授業
：植村さん

● 必見！歴博所蔵：昔の産婆道具



● 産婆記録には分娩の貴重な記録が丁寧に記されていました。

● 朱塗りの木製トラウベははじめて見る素敵な道具！



● 「はじめて見た」「懐かしいわぁ」など、経験により様々な反応でした。

● コンパクトに折りたたんで収納できる計測器！臍帯剪刃やクレンメ、ベビーパウダーもあります。



● 学芸員の方が貴重な所蔵品を紹介して下さいました。お産に携わる産婆さんの仕事道具は、歴史的に価値ある品々であることに感動でした。



♥ ひめじょホームページを見てみん犬(けん)！？

助産師会の研修会やイベント情報が検索できて、チラシも見れる！

終了後は報告記事などもアップされます。

ひめじょメールとホームページをダブルで活用することで参加申し込みもラクラクです。みなさんぜひご覧ください！

☞ <http://himejyo.jp/> 検索「愛媛助産師会」



東予地区
研修お母さんの『産む力』と赤ちゃんの
『生まれる力』で自然なお産を
2017. 11. 12

「医療機関で行う産後ケアの実際」

講師：今村麻依子師長（大阪府済生会富田林病院 お産センター）

東予地区開催の研修会として、西条生涯創成センターで『医療機関で行う産後ケアの実際』と題した講演が行われました。産後ケアに取り組んでいる、大阪府済生会富田林病院『お産センター』の今村麻依子師長を講師にお招きし、産後ケアの取り組みや、助産師としての熱い思いを感じることが出来ました。今村麻依子さんは、以前徳島大学で虐待予防の取り組みを研究していたということから、現在、『お産センター』の師長として自然なお産をモットーに、様々な思いを形にしています。

高齢化、メンタルヘルスの問題を抱える人、ワンオペ育児をしている人たちが増えている時代だからこそ、助産師として、専門性を生かしていくことが大切。



今村麻依子師長

◆産科医不足、分娩施設の集約化、入院期間の短縮…、このような背景から、母乳育児が確立する前に退院する母子が増えており、産後に育児が孤立化している現状があります。その中で、大阪府済生会富田林病院では、助産師が出来る『お産センター』を病院内にある助産院として立ち上げ5年目となります。

安全で満足度の高い出産が出来るよう、専門性の高い助産師が中心となって分娩を介助する専門の施設です。産科医、小児科医とも連携を密にし、必要時には安全性を確保しながら妊産婦の方をサポートしています。妊娠中の助産師外来は、45分～60分の予約制で、じっくりと健診。一人ひとりに適した身体づくりを提案しています。出産後も、お母さんと赤ちゃんの健康状態をみるために『家庭訪問』をおこないサポートしています。また、他施設で分娩された方でも、母乳外来や産褥入院を受けているのも特徴の一つです。

◆産後入院される方の特徴

お産センターの産後入院を利用される方の特徴として、「30代～40代、ネットなど情報収集力があり、

経済的にゆとりのある方。思い描いていた育児とギャップがあるので、自分ひとりで抱え込んでしまう方も多く『ダメな母親なんだ。』とレスポンスを変えられない。」といった特徴があるそうです。



◆『母親自身が大切にされている』という感情を持てる関わり

お産センターでは、産後2週間と1か月にエジンバラのチェックをおこなっています。9点以上は保健センターに紹介しサポート体制を整えています。大阪では、産褥健診も受診利用券をつけていく事業が、今後始まる予定です。しかし、メンタルヘルスカを必要とする産後の方をサポートする体制が整っていないのが現状であり、専門医につなぐことが大きな壁となっているそうです。こういった方達を、助産師が見つけていくこと、また、継続的にサポートしていくことで、『母親自身が大切にされている』という感情を持つことが出来るように関わること、重要な助産師の役割であると、今村さんは伝えていました。

◆アドバンス助産師としての関わり
私自身、アドバンス助産師の資格を取っては3年目。国や行政も、地域包括支援の取り組みが進みはじめ、保健センターと密に連携を取ることも増えてきました。今回の研修を受けて、自施設で出来る「産後ケア」について、考える良い機会となりました。

産後ケアについて、「あまりかまえずに。産後1日目に行っているように、母親を休ませ、手取り足取り教えること。」と今村さんは、自身の経験を踏まえて伝えてくれました。

産後ケアの対象がいても、その中には、上の子が居て入院が出来ないケースもあります。そういう方たちにとっても、より満足のいく産後ケアを提供出来るよう、これから助産師自身が問題や課題に対して、前向きに取り組む姿勢が大切であると感じました。

（広報委員／四国中央病院

：中尾慶子）



リラックスできる環境や、担当助産師さんの顔が見えて雰囲気がいいなあ。

お産センターパンフレット



◆お産センター 助産師からのメッセージ

女性が本来持っている『自ら産む力』と赤ちゃんが持っている『生まれてくる力』を引き出し、正常な経過をたどっている方は助産師が主導で、産婦人科医師と協働しながら、快適で満足していただける質の高い産後ケアを提供していきます。いつの時代も、屈託のない子どもたちの『笑顔』に癒されます。そんな子どもたちを支える親たちの『笑顔』を支え、未来を担う新しい命を大切にしていきたいと思います。（パンフレットより一部抜粋）

『誰と産む』『どこで産む』『どんな思いで産む』ということ、何よりも大切にしながら、施設内で取り組む『お産センター』は、これからの時代に、必要な場所になっていくと思います。（中尾）

共催
イベント

「パパママほやほや子育てセミナー」

第1回 2017.9.10 / 第2回 2018.2.11 場所：男女共同参画センター

毎年、秋と冬の2回開催している「パパママほやほや子育てセミナー」。今年も9月と2月に開催され、大盛況でした。お話やベビーマッサージ、グループトークなど盛りだくさんの内容！パパママだけあって、お父さんたちの積極的な参加が印象的なイベントでした。



● 植村さんのお話やグループトーク



● 写真の赤ちゃんの気持ちを表したふだしに注目！



● パパに遊んでもらってうれしいね

南予
イベント

南予さんばフェスタ 2017 in 宇和島

2017.12.17 場所：道の駅 みなとオアシスうわじま きさいや広場

毎年恒例の「南予さんばフェスタ」がきさいや広場で開催され、60名を超える入場者にお越しいただきました。毎年人気の足型・写真のプレゼントを今年は天使の羽を背景として、とても記念になったと好評でした。詳しい報告はホームページにアップしていますのでご覧ください。



● リフレクソロジー



● 天使の羽の前で記念撮影



● みきゃんがイベント案内役



● 足型も工夫を凝らした台紙で好評！

共催
イベント

母子と助産師の日・安産福運大祭

2018.3.8 場所：徳丸老人憩の家・高忍日賣神社

毎年、村松志保子助産師顕彰会が主催し、本会が共催している「母子と助産師の日のイベント」。今年は、雨の中での開催となりましたが、全国から多くの方が訪れてくださいました。

シンポジウムは、「産婆・助産婦の歴史への接近」というテーマで、社会学、文化人類学、民俗学の先生方の講演でした。「こんな著名な先生方が、しかも少しずつお話しされるなんて！」と、その豪華な人選に驚きでした。私たち助産師の先輩方の歩んだ歴史を知ることとは、

自分たちのルーツを知ること、そして自分たちのこれからを考えることにつながります。母子を守り、この仕事を守ってこられた先輩方の活動に胸が熱くなりました。南予の歴博で見せていただいた、産婆の仕事道具に今回のシンポジウム…今年は、歴史についてご縁のある1年でした。

(広報委員：今村)



● 雨のため、本殿の中での記念撮影となりました。



● 年に一度、この日だけ御神徳図が公開されます。

写真はひめじょホームページの「助産師の方」→「イベント風景(写真)」のURLからダウンロードしますので、ぜひご覧ください。期限は2019年3月8日までです。

東予
イベント

東予さんばフェスタ2018 in 西条

2018.3.18 場所：西条市地域創生センター



今年の「東予さんばフェスタ」は、西条市で初開催となりました！四国中央市から始まり、新居浜、西条へと3年ごとに東へと移動しながら、ついに9回目を迎えました。

さて、東予のイベントは何が楽しいって、事前の企画会議が楽しいのです。イベント本番は、来場者の対応で忙しくなりますが、企画会議では、そのほとんどの時間を本題から脱線しながら、お互いの情報交換をする貴重な時間になっています。小さいお子さんがいるメンバーは、子ども連れで参加してくれるので、子どもたちの成長を感じられる、うれしい機会でもあります。今年も、開催までの2回の企画会議には多くの東予会員が参加してくださり、ワイワイと新しい会場のイメージを膨らませていきました。

今回、これまでと一番違ったのは、展示できる壁面やパネルが少なく、「施設展示ブースをどうしよう!？」ということでした。皆で知恵をふりしぼり、今年は展示物を一新！ダイソーのカラーパネルに写真や説明をコラージュして、机に立てかけるスタイルにしました。これなら今までの模造紙と違って持ち運びも便利、そして見やすい！イベ

ント当日は、工夫を凝らしたカラフルな展示に多くの人が足を止めて熱心に見てくださいました。

また、西条初開催とあって、事前の広報も東予メンバー皆であちこちの広報誌への掲載依頼やチラシ配布をしました。そのような中で今年は、情報誌やテレビ局側から「お知らせしていいですか？」との問い合わせも多く、地域の子育てイベントとしてニーズがあることを実感しました。

開場前から並んでくださる来場者の方も多く、ベビーマッサージ、骨盤メンテ体験の整理券はあっという間に予定数の配布が終了するほどでした。

今年は新しい試みとして、おもちゃアドバイザーの資格を持つ助産師の越智さんのトークや、福祉ネイリストの方をお呼びしてネイルケアのコーナーも企画しました。来年も更にワクワクする企画を東予メンバー皆で企画するのが楽しみです！（広報委員／東予地区会：今村朋子）



●越智さんのおもちゃトーク
●ネイルで気分もUP♪



●HUG HUGトークは抱っこモデルも登場

ママたちに 教えてあげん犬(けん)！？

ひめじょの助産師が
つくった子育てひろば



東予ひめじょ広場「ふわふわ」

平成29年9月から東予地区の助産師により、西条市丹原公民館で妊娠・子育て相談を開催しています。今年から、東予ひめじょ広場「ふわふわ」と命名し、無料相談とあわせて、ちょっとしたイベントやワークショップを行っています。

▲平成30年度の「ふわふわ」開催日：第3日曜日 9時～12時（12月と2月はお休み）

☞開催日はひめじょHP・ふわふわFacebookをご覧ください。



読んでみん犬(けん)！？

「助産師のための
フィジカルイグザミネーション(第2版)」
我部山キヨ子／大石時子（編集）医学書院（2018）

この本の改訂版を待ち続けて…初版から10年後、待望の第2版が出ました！この本は一般的教科書とは違い、「フィジカルイグザミネーション」という実践的な切り口で、診察技術からその根拠へと理解を深めてくれるところが魅力です。他の本ではここまで教えてくれない、一つ一つの診察についての丁寧な記述は、学生や新人にとどまらず、バリバリ働くベテラン助産師の皆さんも「そうだったのか〜」と改めて気づくことも多くあるはずです。今回の改訂では「CLOMiP(助産実践能力習熟段階レベルⅢ認証制度)」を踏まえ、呼吸循環器系、脳神経系、代謝系の異常に関する

章を新設」となっており、アドバンス助産師を目指す皆さんにもぴったりの一冊です。まえがきには「従来にもまして高いフィジカルイグザミネーション能力とアセスメント能力が求められている。それは、単に診察(フィジカルイグザミネーション)をして身体情報を集め、正常・異常のアセスメントをするだけでなく、鑑別診断に向かってさらにどのような診察や検査が必要であるかとも思考し、実施し、臨床推論をできるだけ進めていく能力である。」と書かれています。本学専攻科の授業でも「臨床推論」の力を養うために様々な演習を行っています。が、「一歩先を読んで実践する力」が助産師には欠かせないことを実感します。皆さん、この本で改めて実践の根拠を確認してみませんか？（広報委員：今村）



災害対策 「災害対策訓練：安否確認」が96.4%！ ひめじょメール登録を確実に！！

毎年、2月の第1火曜日10：00に実施している助産師会の全国一斉安否確認訓練。去年は、皆様のご協力のお陰で安否確認率がぐっと上昇し、**86%**になったことをこの誌面で報告しましたが、今年はそれを上回る**96.4%**で、**188人**（2月会員数195名）の方の安否確認ができました！

今年は、メールでの安否が確認できない方は、事務局から

直接電話させていただくなど、さらに確実な把握を目指して対応いたしました。皆様も、勤務中など返信が大変な状況もあると思いますが、なにとぞ協力をお願いいたします。

同じような会員数で100%を達成している県もあります。来年こそ愛媛も**100%の安否確認を目指します**ので、よろしくお願いします。（安全対策委員会・広報委員会）

NEWS 「祝！ひめじょ会員200人突破！」

ついに、愛媛助産師会の会員数が、200人を突破しました（平成30年4月1日時点）。平成20年に会員100人を達成し、それからちょうど10年で、会員数が2倍にまで増加したことになります。

思えば、県内の多くの助産師にとって魅力ある助産師会を目指して情報発信を！と「ひめじょ通信」第1号を発行したのも、ちょうど平成20年でした。それからTシャツを作ったり、お知らせメール配信をしたり…、去年はホームページを開設できたことは大きなニュースでした。

これまで理事会では、研修会を活発に開催し、助産師として学び続けられる環境を整えたり、イベントで地域に出て自分の力を発揮したり、助産師会の活動の幅もどんどん

と広がっていきました。愛媛の事務局がで、運営面でパワーアップしたことも大きな発展です。

また、学生時代からの職業意識の向上を目指した助産師会本部の取り組みも大きいと思います。数年前から学生賛助会員制度ができ、学生の中から機関誌「助産師」が届くことで、自分が目指す職業で、今話題になっていることを身近に感じることができるようになりました。

これからも、新人・中堅・ベテラン、どの世代にとっても魅力ある愛媛助産師会に向けて、皆で助産師会を育てていきましょう！（広報委員：今村朋子）



●ウェルカム ひめじょコーナー●

ひめじょへようこそ！ひめじょ12号掲載以降に新規入会や他支部より転入された会員の皆さまを紹介します。

- ◆中予地区（13名） 白石加恵、相原美紀、田中絵里、藤川真貴子、本田僚子、布谷美望、巻幡真由美、尾崎葵、香川志帆、加納早紀、八塚千恵、西山仁美、吉田奈央
- ◆東予地区（6名） 瀬分三奈子、十河真里奈、石倉怜奈、松本茉悠子、矢野智秋、萩尾のぞみ
- ◆南予地区（1名） 清水加奈

*敬称略：H29年度4月以降の転入／入会者から、H30年4月1日現在で手続き中の方まで掲載。施設名などは、総会要綱の名簿にてご確認ください。

●新入会員の皆様 & アドレスが変わった会員の皆様へ ～ひめじょメール登録のお願い～

愛媛助産師会では、**会員専用のひめじょお知らせメール**を運営しています。研修情報を事前に配信しますので、登録しておけば研修の申し込みもラクラク！災害時の安否確認システムとしても重要なツールになりますので登録にご協力ください。

ひめじょーおしらせ

●登録方法 himejyo-oshirase@mamail.jp にカラメールを送信してください。

*右のQRコードを携帯で読み取ると面倒なアドレス入力が必要です。

*必ずいつもご覧になるアドレスを登録してください。

●携帯の迷惑メール防止機能による削除が多くなっています！

【@mamail.jp】が受信できるよう**再設定**のうえ登録をお願いします！

*設定を簡単に行うには、携帯からコチラにアクセス！→<http://www.mamail.jp/ds/>

●登録がうまくいかない場合は… 事務局 ehime@himejyo.jp にご連絡ください。



入会用のQRコードです。
これで簡単に登録してネ！
すでに登録済の人も、
自分の登録状況が
確認できますヨ！



★ 新入会手続きのご案内

(社)日本助産師会への入会をご希望の方は、以下のいずれかの方法で愛媛助産師会を通じて手続きをなさってください。

- ①研修会の時などに書類と会費を持参する
- ②書類郵送／会費を振り込む（右の連絡先へ）
- ③愛媛助産師会理事に直接渡す

*入会金について：入会手続きを希望される方は、初年度のみ入会金1万円を含む30,000円が必要です。次年度からは年会費20,000円が自動引き落としになります。（学生の賛助会員から正会員に移行の方は、入会金は不要です）

(一社)愛媛助産師会 事務局 連絡先

- 住所：〒790-0804 愛媛県松山市中一万町2-1
愛媛県助産師会立まつやま助産院内
- TEL/FAX：089-945-6757
- Email：ehime@himejyo.jp
- 振込先：ゆうちょ銀行 16140-2281641
（口座名義）日本助産婦会愛媛県支部

★ 編集後記 今回の新しくなった日赤取材はどうでしたか？お産場探訪に皆さんと一緒に行った事は、会員の皆さんをつなぐことを目指している広報委員会としても、とてもうれしい出来事でした。昨年度は、事務局もでき、ホームページもでき、ひめじょにとって飛躍の一年でした。そして今年、ついに会員数200人突破という、うれしいニュースもお伝えすることができました。

おまけになりますが、今年は成年ということで、ひめじょの「読んでみん犬!」シリーズが3匹登場しています。見つけていただけましたか？そういえば、イベントにいつも登場してくれる「みきゃん」も犬でしたね。（編集長 いまむら）

